

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

鳩の森愛の詩あすなる保育園

横浜市泉区新橋町 812-2

運営主体: 社会福祉法人 はとの会

実施概要	1 ページ
総合評価 (評価結果についての講評)	2～4 ページ
評価領域ごとの特記事項	5～6 ページ
分類別評価結果	7～18 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	19～26 ページ
利用者本人調査分析	27～29 ページ
事業者コメント	30～31 ページ

2009年5月26日公表

実施機関: 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	鳩の森愛の詩あすなろ保育園	
報告書作成日	2009年4月24日	評価に要した期間 3ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間 2009年1月4日 ~ 2009年2月9日</p>	<p>職員会議で趣旨等を説明した後、常勤・非常勤全ての職員各個人が自己評価票を持ち帰り、記入した。 各個人が記入したものを、全体職員会議に持ち寄り、1項目ずつ確認・合意した。 それをもとに、主任、園長がまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間 2009年1月15日 ~ 2009年1月31日</p>	<p>全園児の保護者(87家族)に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配布した。 各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日：第1日 2009年2月23日 第2日 2009年2月26日</p>	<p>[第1日] 午前：各クラスで保育観察。 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：書類調査。園長・主任に面接調査。 非常勤職員1名に面接調査、</p> <p>[第2日] 午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 昼食：理事長と一緒に食べながら面接調査。 午後：各クラス担任保育士6名、看護師1名、栄養士1名に個別に面接調査。 その後、園長・主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日：第1日 2009年2月23日 第2日 2009年2月26日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。 幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

鳩の森愛の詩あすなろ保育園は、相鉄いずみ野線弥生台駅から歩いて3分、小高い丘の上にあります。鉄筋コンクリート2階建ての園舎は見晴らしがよく、園庭は斜面を利用した遊具が設置されています。周辺は緑に囲まれ、四季の自然に触れることができます。

当園は、2002年（平成14年）4月、社会福祉法人はとの会により開設されました。法人は近くの鳩の森愛の詩保育園、瀬谷区の鳩の森愛の詩瀬谷保育園の2つの認可園のほか、キッズクラブ（学童保育施設）を2ヶ所運営しています。無認可保育所時代を含めると約24年の歴史があります。

定員は87名（産休明け～5歳児）、開園時間は平日は7時から20時、土曜日は7時から18時です。

基本理念として「鳩の森は子どもたちをまん中に、保育者と父母が手をつなぎ合い、支え合い、成長し合うことを『共育て共育ち』と呼んで、日々の暮らしの原点としています。」、具体的な保育目標として「お互いを認め合う仲間になろう」「しなやかな体をつくろう」「感性を豊かにしよう」「共育て共育ちの喜びを大きくしていこう」を掲げています。

高く評価できる点

1、子どもたちは思いっきり自分を表現し、のびやかに育っています

園は子どもたち一人ひとりと共に育ちあうことを大切にしています。保育者は子どもたちの目線に合わせ、たくさん声をかけ、一人ひとりの話をゆっくりと聞いていますので、子どもたちは落ち着いています。

子どもの発達に合わせた手作りおもちゃも多く用意され、0、1歳児でも空き箱に乗ったり、押したり、またがったりと遊びを広げることができます。幼児になると自分たちで話し合っごっこ遊びをしたり、ルールを自分たちで決めて集団で遊んだりすることができています。保育者は近くで見守り、子どもたちの話を聞き、子どもたちの要求に応え遊びを広げるための手助けをしています。異年齢で過ごす機会も多く、年下の子どもは年上の子どもの姿を見て遊び方や生活のルールを学んでいます。たとえば、幼児が太鼓をたたいたり踊ったりしている姿を見て、乳児も紙でできたバチで箱をたたいたり、体をゆすったりして真似をしています。

歌や踊り、製作などの造形活動も発達段階にあわせ積極的に取り入れています。保育者自身が見本を示す、子どもたちの興味があることを造形活動への導入に取り入れるなどの取り組みを通して、保育者は強制することなく子どもたちが自由に表現できるような環境を作り出しており、子どもたちはのびやかに自分を表現しています。活動をしているときの子どもたちの表情は生き生きと楽しそうです。また、子どもの歌や踊り、作品に対して保育者が声に出して共感を示すことが子どもたちの自信につながっています。

このように保育全般を通じて、「共育て、共育ち」の理念が実践されています。

2、園全体に風通しのよい雰囲気がかもし出され、保育者は子どもたちを尊重しています

保育者は子どもたちと育ち合うことを大切に、一人ひとりの子どもに寄り添っています。職員同士がお互いを名前呼び合うだけでなく、子どもたちも職員のことを名前呼んでいます。また、子どもたちに対しては指導するのではなく、子どもたち自身の意欲を引き出すような声かけを心がけています。注意する時も、危険な時以外は叱ることはせず、子どもの話を聞いた上で子どもが納得するように諭しています。子どもたち一人ひとりの子どもの様子をよく見守り、その子どもの成長に必要な声かけや支援を必要に応じて行っています。保育者が説明を始めると、子どもたちは静かに集中して聞いています。

このような保育を実践するため、保育者など職員は職員会議で個々のケースについて話し合うだけでなく、

1 分間スピーチを行い自分のことを伝え合うなど、お互いを理解するための取り組みを行っています。また、一人ひとりの園児に対する「卒園のうた」作りや行事など、話し合いの機会が多くあり、これらの作業を通してお互いの保育について、意見を交換し、相談し、助言を得ることができる「学びあう」関係が育っています。このような風通しのよい雰囲気の中、保育者は連携して保育にあたっています。

研修も充実しており、食育や障がい児など保育に直接関わるものだけでなく、平和学習や民舞、演劇鑑賞などがあります。これらの研修のあとには、保育者は技術的に得たことだけでなく、研修を通して自分たちの生き方や保育をいかに見直し成長したか、それをどのように活かしたいかについて、レポートを提出しています。このような作業を通じ、保育者は多くのことを学び成長しており、子どもたちへの姿勢の基盤となっています。子どもたちは保育者が得たものや経験を伝えられ、保育者と共に多くの経験をし、共に育っています。

3、子どもたちは地域に見守られ、地域と共に育っています

園は地域の施設として、地域と積極的に関わっています。

園は月 2 回、世代間交流事業「いきいきあすなろ」を実施し、地域の一人住まいのお年寄りと 5 歳児が交流しています。一緒に歌を歌ったり、製作したり、給食を食べたりし交流しています。「いきいきあすなろ」には近くのグループホーム、高齢施設の入居者も参加しています。

子育て支援としては、一時保育、交流保育、園庭開放を実施するとともに、いつでも育児相談を受けています。また、月 2 回近隣の公園で、家庭で子育てをしている親子を対象に「あそぼう会」を開催し、毎回大勢の親子が参加しています。活動によっては園児が参加し、地域の子どもたちと交流することもあります。

地域との交流もさかんで、散歩などで行き会った地域の人たちと保育者と子どもたちは日常的にあいさつを交わし会話しています。地域の行事にも参加しており、地域の祭り（あつまつり）や泉区老人クラブ連合会主催の「泉人まつり」、泉区社会福祉協議会福祉大会では職員、園児が太鼓や荒馬踊りを披露しました。

このような地域との交流を通じ、子どもたちは地域に見守られ地域と共に育っており、保育者と子どもたちは多くのことを学んでいます。

4、父母が積極的に保育園に関わっています

「共育て共育ち」の理念を実践するためには、父母との協力、連携が不可欠です。父母は全員が父母の会に入っており、活発に活動しています。父母は「おたよりプロジェクト」「バザー実行委員会」「環境整備委員会」「運動会実行委員会」「父母の会役員会」のどれかに所属することになっており、保育者と協力し活動しています。

父母の会主催の行事も多く、サマーフェスティバル、春、秋の子どもまつりなどのほか、父母の懇親を図るためのクラス懇親会やウェルカムパーティー、望年会などが行われています。特に父親の参加が多く、行事などのほか、卒園児のための歌の合唱練習にも多くの父親が参加しています。父親による親子フットサル、アラリオン（父親たちの民舞）などの自主活動も盛んに行われています。これら、父母の会の活動には、園としても積極的に支援、協力しており、場所を提供するほか、保育者も参加、協力しています。

独自に取り組んでいる点

卒園児一人ひとりの「卒園のうた」があります

園では卒園児一人ひとりに「卒園のうた」を贈っています。「卒園のうた」の製作に当たっては、保育者は子ども一人ひとりの性格や園での様子、エピソードについてみんなで話し合いを重ね歌詞を作成し、それに合わせ作曲家が曲をつけます。作成された「卒園のうた」は園内に掲示され、全園児が日々の保育の中で覚えて、卒園式で歌います。また、父母の希望者と保育者の合唱団も結成し、一緒に歌って卒園を祝っています。

努力を続けることが期待される点

1、コミュニケーションをとる機会が少ない父母への対応を続けることが期待されます

園では父母の会と協力するだけでなく、日常の保育においても父母とのコミュニケーションを密にし、連携して保育を行うために様々な取り組みを行っています。また、仕事で懇談会に出席できないなどコミュニケーションをとる機会が少ない父母への対応を充実させることの大切さについても認識しています。

今後も無記名のアンケートの実施などの工夫をし、コミュニケーションをとる機会の少ない父母の意見をさらに汲み上げる努力を続けることが期待されます。

2、記録業務の簡素化や合理化への取組みが期待されます

園では、子どもに関する日々の情報を書式に丁寧に記録し、個人別にファイルしています。また、会議録や研修記録なども詳細な情報として蓄積しています。しかし、こうした情報の蓄積や管理には手間がかかり、保育者など職員の業務負担が大きくなりがちであるため、現在行っている記録作業などの効率化を進めることが望まれます。その解決のためには、重要度に応じた記録方法の検討や、重複している記録の見直し又は書式変更など、記録方法の簡素化や合理化へ向けた工夫が期待されます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ◇ 法人の理念は、「子どもたちをまん中に、保育者と父母が手をつなぎ合い、支え合い、成長し合うことを『共育て共育ち』と呼んで、日々の暮らしの原点としています。」です。法人の理念に基づいて作成された保育方針は、「なかまといっしょに遊び、思い描いたことを実現していく力、お互いを思いやる心を、人間として生きていく大切な根っこと考えます。子どもたちは、平和な幸せな世の中をつくる担い手です。子どもたちのありのままの姿を受け入れ愛し、ひとりひとりがかけがえのない存在として成長していくことを保障する保育園でありたいです。」として、子どもの権利を保障するものになっています。
- ◇ 職員に対して、学習会や職員会議を通じて子どもの人格を辱めたり自尊心を傷つけてはいけないことや個人情報保護、プライバシーの保護について学習し理解を深めています。
- ◇ 虐待を防止するための対応マニュアルを整備し、全職員に周知しています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 保育者は、保育方針の「共に育ちあう」ことや保育目標について職員会議等で研修を重ねて深く理解し活動しています。
- ◇ 全年齢の子どもは日常的に、玄関や廊下、階段、テラス、園庭で自由に交流し、縦割りで活動する「兄弟の日」や、異年齢で活動する行事も取り入れています。
- ◇ 父母も参加する様々な行事を開催しています。
- ◇ クッキング保育、食材のプランター栽培、太鼓、卒園児のための歌の合唱など日常の保育へも多様な活動を取り入れています。
- ◇ 給食には、有機米や国産・低農薬の安全性の高い食材にこだわり、献立には季節の行事食を取り入れています。また、子どもの食への関心を高める取り組みをしています。
- ◇ 日常の散歩では、地域の住民や近くの系列園の園児と挨拶や会話を交わし自然に交流しています。地域の行事や活動へも積極的に参加しています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 保育計画は、年度ごとの子どもの状況や父母の就労状況など実情を勘案し、栄養士など各部門の職員全員が横断的に関わり作成しています。
- ◇ 各計画の実効性は、理事長・園長を中心として職員会議などで検証しています。
- ◇ 苦情を解決する仕組みがあり、マニュアル化されています。
- ◇ 健康管理・感染症対策・衛生管理・安全管理業務に関するマニュアルを整備しています。
- ◇ 規定類は経営層が管理し、マニュアルは職員間で共有しています。

4、地域との交流・連携

- ◇ 保育相談・一時保育・地域子育て支援など、園の専門性を地域へ還元しています。
- ◇ 地域の小・中・高校生やお年寄りなどのボランティアを受け入れています。
- ◇ 近隣の小学校やグループホームとの交流、地域新聞の発行、緑化を進める地域活動に参加しています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 園の情報は、法人のホームページの開設や第三者評価を連続受審して広く公開し、組織の透明性確保に努めています。また、経営や運営に関する情報は、父母の希望があれば公開する姿勢です。
- ◇ クラスリーダー・給食室リーダー・主任保育士・園長で構成されるリーダー会議を毎月開催し、異なる部門が横断的に連携して業務について具体的な検討を行い、経営層とともに業務管理を行う場としています。
- ◇ 中長期計画は「地域で子育て中の親子、お年寄り等を支援できる居場所作り」として方向性を示し、年度ごとに作成する各計画に具体化しています。各計画は、父母の会や職員会議で関係者へ周知しています。
- ◇ 園の情報は、法人のホームページや第三者評価を連続受審して広く公開し、経営や運営に関する情報は、父母の希望があれば公開する姿勢です。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 職員個別の経験や能力、習熟度に応じて求められる役割と期待水準に応じた研修計画を作成しています。個別の目標設定に基づく育成もしています。
- ◇ 園長は、年2回職員との個別面接や日々の業務の中で就業状況を確認し、就業環境などへの要望を聞き取り、必要に応じて改善しています。
- ◇ 実習生を積極的に受入れ、将来の保育の担い手の育成に貢献しています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。



「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 法人の理念は、「子どもたちをまん中に、保育者と父母が手をつなぎ合い、支え合い、成長し合うことを『共育て共育ち』と呼んで、日々の暮らしの原点にしています。」であり、子どもと父母を尊重したものになっています。 理念に基づいた保育の基本方針は、「なかまといっしょに遊び、思い描いたことを実現していく力、お互いを思いやる心を、人間として生きていく大切な根っこと考えます。子どもたちは、平和な幸せな世の中をつくる担い手です。子どもたちのありのままの姿を受け入れ愛し、ひとりひとりがかけがえのない存在として成長していくことを保障する保育園でありたいです。」としています。 保育目標は「 お互いに認め合う仲間になろう、 しなやかな体をつくろう、 感性を豊かにしよう、 共育て共育ちの喜びを大きくしていこう」を掲げ、理念や保育方針を具体化したものになっています。 理念や保育方針について、職員の理解を深めるために、年度初めの法人全体学習会で理事長が説明を行い周知に努めています。また、園長や主任は、日々の業務の中で、保育者の保育実践を観察して、必要に応じて指導・助言を行っています。 サービスの実施内容は、保育の基本方針に沿っています。 保育計画は、地域の実情や、父母の就労状況などに配慮して作成しています。保育計画の内容は、入園時や年度当初のクラス便りへの掲載やクラス懇談会で説明し周知に努めています。 クラス懇談会は、平日夜と土曜日に開催するなど多くの父母が出席できるよう工夫して、保育計画の変更など連絡事項の周知に努めています。 保育計画に基づいて、年度ごとに子どもに沿った指導計画を作成し、理解のできる子どもには日々の保育の中で説明しています。 子どもが主体となる遊びや行事などの活動は、子どもの意見や希望を尊重して、自主性や主体性を活かす活動になるよう努めています。

- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- ・ 入園前に、父母との個人面談を実施して、これまでの生育暦や家庭の状況などの聞き取りや、子どもの様子を観察し記録しています。また、園に対する子どもや家庭の意向や不安を汲み取るために、相談用紙を配布しています。
- ・ 個人面談などの記録や父母から提出してもらった児童表などの書類は、子ども一人ひとりの情報として個別にファイルして、日々の保育に反映しています。
- ・ 新入園児について把握した情報や、子どもの様子から、導入保育(ならし保育)を提案し、期間や時間帯を父母と共に検討しています。
- ・ 導入保育(ならし保育)では、担当者が毎日の様子を写真などを用い詳細に父母へ報告しています。また、導入保育(ならし保育)後も連絡ノートに詳細で、丁寧に子どもの様子を報告し、父母の不安を解消するよう努めています。
- ・ 在園児の進級時には、担任の一人が持ち上がりで引き続き担任になることで、子どもが不安にならないように配慮しています。
- ・ 年間指導計画は、月間指導計画・週案・日案に具体化され、週案や日案は、子どもの状態や天候などに応じて最適な保育になるよう柔軟に見直しています。計画の作成には、子どもの発達に応じたトイレトレーニングや離乳食など、連絡ノートや日々の交流から得た父母の意見や意向を勘案しています。

- 3 快適な施設環境の確保



- ・ 園内外を清潔な環境に保つため、職員は清掃分担表や環境整備チェックリストに基づいて清掃しています。また、クラスごとに通風・換気、空調の調整を行い温度・湿度の調整をしています。0歳児の保育室には加湿器を設置しています。
- ・ 午睡時には、ロールカーテンを下ろして、安眠できる環境を作っています。
- ・ 雨の日など戸外活動ができない場合は、クラス間で調整して互いの活動の妨げにならないように配慮しています。
- ・ 沐浴設備や温水シャワー設備は、マニュアルに基づき清掃され清潔に保たれています。
- ・ 0・1歳児の保育室は、ガラスのドアで2つの部屋に仕切られ、発達状況や特性に応じて使い分けています。また、各保育室は、畳やベンチ、本棚などを用いてコーナーを分け、小集団活動ができるよう配慮されています。
- ・ 0、1歳児が2階の幼児クラスに出かける、おやつ時には5歳児が0~4歳児を手伝うなど、異年齢交流の場を設けています。
- ・ 全年齢の子どもは合同で行事の練習をしたり、日常的に、玄関ロビーや廊下、階段、テラス、園庭で自由に交流しています。年上の子どもが年下の子どもを気遣う姿も見うけられ、子どもたちは違和感無く過ごしています。

- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・ 0歳児と1歳児は、子ども一人ひとりの個別指導計画を毎月作成しています。2～5歳児では、特に配慮を必要とする場合に、個別指導計画を作成しています。個別指導計画は毎月見直し、子どもの状態に応じて柔軟に変更しています。
- ・ 個別指導計画の作成や見直しには、臨床心理士のアドバイスや、戸塚地域療育センター、泉区福祉保健センターの巡回指導時の助言など、専門家の視点も盛り込まれています。
- ・ 個別指導計画の重要な部分は、父母との個別面接時や日々の送迎時に伝えています。また、全年齢で父母と連絡帳を毎日やり取りし、状況や要望を確認しています。
- ・ 子ども一人ひとりの発達状況は、3ヶ月ごとに記録しています。

- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・ 特に配慮を必要とする子どもの受け入れを積極的に行い、適切な保育を行うための検討をしています。
- ・ 特に配慮が必要な子どもへ対応するために、父母の同意を得て、臨床心理士、戸塚地域療育センターや西部児童相談所から情報を収集する体制があります。また、保育者が父母と一緒に専門機関へ出向いて助言や情報を得ています。
- ・ 障がい児保育研修への参加や、臨床心理士の保育参加による保育者への助言の機会を設けて、保育者の障がい児保育のスキルを高めています。
- ・ 特に配慮を必要とする子どもに対応するため、保育者や父母（希望により）、臨床心理士が「ミントの会（勉強会）」を定期的開催しています。
- ・ 園では、歌いながら手話を学ぶ取り組みなどを通じて、障がい児と障がいのない子どもたちが違和感無く過ごせるよう努めています。
- ・ アレルギー疾患のある子どもの給食やおやつは、医師の診断書に基づいて除去食または代替食を提供し、全職員が対応できるよう職員会議等で周知に努めています。
- ・ 文化や生活習慣の異なる子どもから、あいさつなどの言葉や習慣を教えてもらったり、オリンピックやワールドカップなどの新聞記事を利用して、様々な異なる文化や習慣があることの理解を促しています。

- 6 苦情解決体制



- ・ 園には、苦情を解決する仕組みがあり、マニュアル化されています。仕組みの中で、第三者委員を設置して、園に直接伝え難い苦情を伝えることができる体制です。受付担当者や解決責任者は、園内掲示や年度初めに文書にして父母に配布しています。
- ・ 園内に、苦情などを受け付ける「提案委員会ポスト」と、理事長宛の「せぬママなんでもポスト」を設置しています。
- ・ 寄せられた意向や苦情は、提案委員会での検討や第三者委員を交えて解決に向けて検討する仕組みがあります。
- ・ 園内で解決が困難な事例は、法人レベルでの検討または市などと連携して解決しています。
- ・ 解決策と経緯は、職員会議で職員全員に周知しています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="161 302 472 338">- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="600 259 1474 517">・ 乳児においては指先を使うおもちゃや保育者の手作りおもちゃ、幼児においてはこまやかた、パズルなど子どもの成長発達に合わせたおもちゃが用意されています。おもちゃは子どもの目の高さに並べられており、自由に取り出すことができます。また、棚やかごにはおもちゃの絵や名前がついており、子どもが自分で片付けることができるよう工夫されています。 <li data-bbox="600 528 1474 786">・ 子どもの話からクッキング保育としてクッキーを作り、それをおみせやさんごっこでのクッキー屋に広げるなど、子どもの発想を集団活動に取り入れています。5歳児はおみせやさんごっこの「おばけやしき」で自分たちで話し合い運営や役割分担などを行い、ろくろ首や見学して回るルートを作るなど自由な発想を広げ、完成させました。 <li data-bbox="600 797 1474 920">・ 一斉活動において、保育者は子どもたちに強制するのではなく、自ら一生懸命歌ったり、踊ったりする姿を子どもたちに見せることにより、子どもたちの意欲を自然に引き出しています。 <li data-bbox="600 931 1474 1010">・ 「あすなるミニファーム」として、プランターに野菜を栽培しています。収穫した野菜はクッキング保育に用いています。 <li data-bbox="600 1021 1474 1144">・ 幼児は発達にあわせ、和太鼓、民舞を行っています。乳児は新聞を巻いたバチで、紙で作った手作り太鼓をたたいて真似したり、リズムに合わせて体をゆすり、踊ったりしています。 <li data-bbox="600 1155 1474 1323">・ 乳児においては、保育者は散歩、遊び、着替えなどの生活の切り替わりごとに歌を歌っており、子どもたちも覚えていて、合わせて歌っています。3、4、5歳児は朝の「うたおう会」でたくさんの歌と一緒に歌っています。手話がついている歌もあります。 <li data-bbox="600 1335 1474 1503">・ 職員全員が協力して卒園児一人ひとりの「卒園のうた」を作り、全園児は全員分の歌を覚えて一緒に歌っています。0、1歳児も一緒に歌い「ちゃんだー」と言ったりしています。卒園式には、園児と職員全員、父母の希望者で歌います。 <li data-bbox="600 1514 1474 1727">・ 子ども同士のけんか等については、乳児においては保育者はお互いの気持ちを代弁し、思いを伝え合うようにしています。幼児においては保育者は自分たちで解決できるように見守っていますが、必要に応じてお互いの意見を伝え合い、納得できるよう言葉を足し援助しています。 <li data-bbox="600 1738 1474 1906">・ 職員同士が名前呼び合うだけでなく、子どもたちも職員のことを名前呼び、子どもと保育者が共に学び合おうという姿勢を示しています。保育者は命に関わるような危険な時以外は叱るのではなく、子どもが納得するよう諭しています。 <li data-bbox="600 1917 1474 2033">・ 晴れた日は戸外で、体を動かしたり自然に触れる機会を作っています。「お弁当の日」にはお弁当を持って、日ごろは行けないような遠くまで散歩に出かけています。

- 1 保育内容[生活]



- ・ 給食は、幼児では子どもの希望により、量を減らしたり、おかわりしたりすることができます。保育者は苦手なものを少しは食べてみるよう働きかけはしますが、無理に食べさせるようなことはしません。
- ・ 2歳児では保育者が子どもたちの目の前で配膳し、3、4、5歳児は当番が配膳しています。幼児クラスではご飯を保育室で炊き、炊きたてのご飯の香りで子どもたちに食事の時間を意識させるとともに、食欲がわくようにしています。5歳児の当番がお米をといでいます。
- ・ 卒園前になると、5歳児は「リクエストメニュー」と称して、もう一度食べたいメニューを一人ひとりがリクエストすることができます。全園児が「ちゃんのリクエストメニュー」と言って食べています。
- ・ 有機米、国産の低農薬の野菜や果物、手作りパンや手作りおやつなど食材の安全性に配慮しています。また、食器は木の器を用いています。
- ・ 卒園前に5歳児は自分たちで自分用の瀬戸物のお茶碗を保育者と一緒に買いに行き、用いています。
- ・ 子ども1人ずつの成長曲線をつけ、園としての食事摂取基準値を出しています。系列3園の管理栄養士、栄養士、調理師、園長が参加する月1回の献立検討会議では、献立について話し合っています。
- ・ 毎月献立表を作成し配布しています。献立表には給食メニューのレシピを載せ、紹介しています。また、毎月の『おたより』に「給食だより」を載せ、子どもたちの給食の様子や食育、食の問題などについて情報提供しています。
- ・ 乳幼児突然死症候群(SIDS)対策として5分ごとに呼吸をチェックし、チェック表につけています。
- ・ トイレトレーニングは2歳児クラスの夏を目安に一人ひとりの発達に合わせ父母に声をかけ、進めています。
- ・ 子ども一人ひとりのリズムに合わせ、おむつ交換をしています。乳児のおむつを替える時は、保育者は一人ひとりと一対一で向き合い、話しかけながら行っています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・ 健康管理マニュアルが整備されており、一人ひとりの健康状態を把握しています。
- ・ 個人別の児童健康管理台帳に、既往症について父母に記入してもらっています。また、健康診断、歯科検診の結果を児童健康台帳に記録しています。健康診断、歯科検診の結果はコピーを連絡帳に貼って父母に伝えています。
- ・ 感染症に関するマニュアルがあります。登園停止基準や感染症に対する対応は園のしおりに載せ、父母に周知しています。
- ・ 「ほけんだよりぐ んぐん」を毎月の『おたより』に載せるとともに、インフルエンザの流行期などには不定期に発行し、子どもたちの健康や感染症に関する情報を提供しています。

<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衛生管理に関するマニュアルがあります。マニュアルは年1回職員会議で全職員で読み合わせを行い見直しを行うとともに、確認・周知しています。 ・ 清掃チェック表に基づき、清掃が行われています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢ごとの園児の安全についてのマニュアルを含む安全管理マニュアルを作成しています。毎年1回、職員会議で安全管理についてのマニュアルを全職員で読み合わせ、確認、見直しを行い周知しています。 ・ 地震等を想定し、備品等の転倒防止策を講じています。また、安全管理表に基づき毎日朝夕に保育室、園庭などの安全点検を実施しています。 ・ 毎月地震、火災、不審者などを想定した避難訓練を行っています。また、第一次避難場所への誘導訓練も実施しています。 ・ 子どものケガについては些細なケガの場合は看護師が手当てをし、送迎時に担任が父母に報告しています。大きなケガの場合は父母の了解を得て病院の診察を受け、経過について担任が直接話すとともに、その後の様子についても連絡をとっています。また、事故があった場合には緊急の職員会議で改善策を話し合っています。 ・ 門、正面玄関は施錠するとともに、不審者対応マニュアルを作成しています。
<p>- 3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者は保育方針の「共に育ちあう」ことについて職員会議等で研修を重ねており、子どもの人格を辱めたり、自尊心を傷つけてはいけないことを周知しています。 ・ 保育者は子どもの目線にあわせ、ゆっくり穏やかな口調で話しかけています。保育者は子どもの話をよく聞いており、最初に子どもの思いを受け止めてから、大人の思いを伝えるようにしています。 ・ コーナーや押入れ、廊下、テラス、事務室など必要に応じて、プライバシーを守れる場所を用意することができます。 ・ 「個人情報保護に対するガイドライン」に基づき「個人情報の利用目的について」を策定し、職員に周知しています。父母に対しては年度初めに口頭で説明するほか、取材などについては父母にそのつど確認していています。また、毎月の『おたより』に載せる写真については父母の会から父母の了解を取っています。今後は、規定を策定するなど個人情報の方針を明文化することが望まれます。 ・ 「こども虐待の対応マニュアル」を策定し、職員会議などで全職員に周知しています。朝の視診などで子どもの様子に目を配り、家庭訪問するなど虐待の防止に配慮しています。 ・ 遊びや役割、持ち物、順番、グループ分けなどで性別による区別はしていません。

- 4 保護者との交流・連携



- ・ 保育の基本方針については入園説明会や年度初めのクラス懇談会で説明するとともに、園のパンフレット、しおり、ホームページに保育理念、保育目標を明記しています。また、毎月父母の会と共同で『おたより』を発行し、保育の様子を伝え、保育方針がどのように実践されているかを理解できるようにしています。
- ・ 年2回クラス懇談会や朝夕の送迎時で、子どもたちの様子を伝えていきます。0～5歳児まで連絡帳を用い、父母ときめ細かく情報交換しています。2歳児と4歳児は全員に対し個人面談を行っています。他のクラスについては、父母から希望があった時や気になることがあった時には随時個人面談を行っています。
- ・ 父母から相談を受けた職員は園長、主任に報告し、助言が受けられる体制ができています。また、必要な場合には園長、主任が担任と同席することもあります。相談は記録し、職員会議で話し合い、継続的なフォローを行っています。
- ・ 父母の会と共同で『おたより』を発行しています。『おたより』の発行を担当する「おたよりプロジェクト」には各クラス委員とともに職員2人も参加しています。
- ・ 月ごとに子ども一人ひとりの個別アルバムを作成し、保育の様子が伝わるようにしています。
- ・ 保育参加は随時受け入れており、積極的に父母に参加を呼びかけています。また、毎月の『おたより』に懇談会や保育参加に参加した父母の声を載せ情報共有しています。
- ・ 父母の合唱団や父親たちの「アラリオン」（父親たちの民舞）「親子フットサル」などの自主活動に場所を提供するなど園として協力、支援しています。
- ・ 父母は「おたよりプロジェクト」「バザー実行委員会」「環境整備委員会」「運動会実行委員会」「父母の会役員会」のどれかに所属し、園と協力しています。

評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 泉区社会福祉協議会の会議や泉区の子育て支援事業「いずみっこひろば」、園主催の地域支援活動「あそぼう会」や一時保育の利用者などから地域のニーズを把握しています。 ・ 一時保育、交流保育、園庭開放を行っています。また、月2回近隣の公園で、家庭で子育てしている親子を対象に「あそぼう会」を開催しており、園児が参加し交流することもあります。 ・ 系列園3園と父母の会が「鳩の森セミナー」を開催し、地域住民も参加しています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域支援活動「あそぼう会」で園のパンフレットを配布し、情報提供しています。また、新橋、弥生台地区に地域向けの情報誌「鳩の森っ子」をポスティングし、園情報を発信しています。 ・ 関係機関との連携の窓口は園長、主任としており、戸塚地域療育センター、泉区福祉保健センター、西部児童相談所との連携ができています。

評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月2回の世代間交流事業「いきいきあすなろ」を実施し、地域の一人住まいのお年寄りと5歳児が交流しています。一緒に歌を歌ったり、製作したり、給食を食べたりする交流を通して、子どもたちは多くのことを体験したり学んだりしています。お年寄りは子どもたちから元気をもらっています。「いきいきあすなろ」には近くのグループホーム、高齢施設の入居者も参加しています。 ・ 地域の祭り（あつまつり）へ出店するとともに、職員、園児が太鼓を披露しています。また、泉区老人クラブ連合会主催の「泉人まつり」や泉区社会福祉協議会福祉大会では職員、園児が荒馬踊りを披露しました。 ・ 子どもたちは散歩などで、地域の人たちとあいさつを交わしています。地域の人たちも子どもたちを見守り、声をかけています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園のパンフレットやホームページで情報提供しています。また、子育て情報誌や、地域のケーブルテレビなどの取材に応じ情報提供しています。 ・ 新年度からの利用希望者に対し、区役所への申請前に入園説明会を開催し園の基本方針などを理解するよう努めるとともに、見学することを勧めています。見学希望者は随時受入れますが、保育に支障のない範囲で行っています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアおよび実習生受け入れのためのマニュアルがあり、それに基づき園の方針、配慮すべきこと、守秘義務などを説明しています。 ・ 小・中・高校生や「いきいきあすなろ」のお年寄りのほか、地域のお年寄りが乳児クラスにボランティアとして入り手伝っています。 ・ 実習生の実習目的や希望にあわせ、プログラムを作成しています。実習終了後には、園長、主任、担当保育者が参加し反省会を行っています。 ・ 法人では、大学の保育科での授業を受け持ち、園からも保育者を講師として派遣し、環境や健康について講義をしています。学生に保育の楽しさを伝えることにより、次世代育成を行っています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園運営は、保育者は基準以上の人数を確保して、できる限り子どもへ手をかけられるようにしています。 ・ 理念や保育方針を実現するために、年度ごとに育成計画を作成しています。また、職員一人ひとりの育成のため、理事長・園長が個別面談で確認しています。 ・ 園内の内部研修、法人内3園合同研修・学習会を定期的に行い、常勤・非常勤を問わず職員全員が参加しています。横浜市などが開催する園外研修へも積極的に参加しています。また、地域の高齢者グループホームや障がい者の作業所との連携により、職員は体験学習しています。 ・ 研修報告書は、父母へも配布する独自の取り組みをしています。 ・ 非常勤職員は、常勤職員同様に職員会議や学習会に参加しています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員会議や学習会で検討したサービスの課題については、クラス担任同士での確認、個人面談時での確認で個々の職員のスキルの問題として自己評価を行っています。 ・ 日々の業務の中の工夫や気づき、改善点は課題に応じて職員会議、学習会、カリキュラム会議を通じて学んでいます。 ・ 法人内3園が交流して学びあう機会を設け、園内の保育について振り返りをしています。 ・ 大学などの保育の専門家が、保育の評価をしたり模範を見せて、保育者を育成しています。 ・ 職員の経験年数や役割に応じた研修の機会を設けています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の経験や能力、習熟度に応じて求められる役割と期待水準は、人事考課制度の考課項目や職員ごとに作成する自己評価表に明示されています。 ・ 職員が自主的に判断できる範囲は、権限や責任の範囲として職務分掌や組織図などで確認できます。 ・ 年に2回実施する個別面談で、職員の満足度や要望を把握しています。 ・ 実務の集大成として全国保育団体合同研究集会や関東ブロック大会で実践報告を発表することは、職員の自信や励みにつながっています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が守るべき法や規範などは、就業規則の服務規程などに明文化されています。 ・ 園の情報は、法人のホームページの開設や第三者評価を連続受審して広く公開し、組織の透明性確保に努めています。 ・ 経営や運営に関する情報は、父母などからの依頼に応じて公開する姿勢です。 ・ 保育の質を低下させない範囲で、ゴミを減らすよう心掛け、布オムツを使用し、紙オムツのようなゴミの排出をしない方針です。 ・ ペットボトルの蓋を集めて換金し、海外の子どもへワクチンを援助する活動を行うリサイクル業者を利用しています。 ・ 高齢者を中心に道路や公園の清掃と緑化を進めるハマロードサポーターに参加し、花植えなどの活動をしています。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人の理念や保育方針は、園内の目に触れやすい場所に掲示し、職員の理解を深めるため、年度初めの法人内合同研修会で理事長が説明しています。 ・ 理念や保育方針に基づいた保育について、理事長や園長が日々の活動で説明しています。 ・ 個人情報保護法の施行に伴い、年度初めに弁護士を招いて、園での取り組み方法などについて研修を行っています。 ・ 重要な意思決定に際して、父母会や父母会の代表者と検討の場があります。 ・ クラスリーダー・給食室リーダー・主任保育者・園長で構成されるリーダー会議を毎月開催し、異なる部門が横断的に連携して、運営業務について具体的な検討をしています。 ・ 主任はスーパーバイザーとして、カリキュラム会議に参加し、各職員の業務計画・報告を把握し、実務内容と照らし合わせて実績を把握しています。 ・ 職員の就業状況の把握は、日頃のコミュニケーションを通じて把握しています。主任・園長は、職員が相談しやすい環境作りに努めています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園運営に影響する法改正などの外部環境の変化の把握は、市役所や社協、弁護士、社会保険労務士、メディアなどから収集しています。業界に関する情報は、私立保育園園長会や私立保育園経営懇談会などから収集しています。また、地域ニーズなどは、父母OBや連合町内会長などとの交流で把握しています。 ・ 重点改善課題として検討が必要な場合は、定期的開催する法人内5施設長会・3園長会議・3園長主任会議で検討し、園内職員会議などで具体的な業務課題として検討しています。 ・ 法人では5年間の中期計画を策定しています。中期計画の目標は、「地域で子育て中の親子、お年寄り等を支援できる居場所作り」として方向性を示しています。

- ・ 園運営の評価は、法人の理事会や評議会で検討されます。評議会は、外部の学識経験者、連合町内会長、区社協会長、公認会計士など外部の専門家などで構成され、意見交換や助言を得ています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2009年1月15日～1月31日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 約60.9%（87枚配付、53枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...8人、1歳児クラス...14人、2歳児クラス...8人、3歳児クラス...5人、
4歳児クラス...11人、5歳児クラス...7人

ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

文中の「満足」「満足度」は、「満足」「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、
「不満足」は、「不満」「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

「保育園の保育目標・保育方針を知っていますか」は、「よく知っている」「まあ知っている」の回答が92.5%です。そのうち「賛同できる」「まあ賛同できる」が95.9%です。“共育て、共育ち”の理念に対する賛同の声が多数ありました。

【問2】入園時の状況について

「入園時の状況」は、「園の目標や方針の説明」について100%が満足と回答しました。他項目では、「見学の受入れ」「入園前の見学や説明など園からの情報提供」「園での一日の過ごし方の説明」で90%を超える満足度、「お子さんの様子や生育暦などを聞く対応」「費用やきまりに対する説明」は80%を超える満足度です。“説明が丁寧だった”などの満足の声が多い反面、“想像以上の出費がある”などの意見があります。

【問3】年間の計画について

「年間の計画」は、「年間の保育や行事についての説明」では90%を超える満足度、「年間の保育や行事について保護者の要望が活かされているか」では80%を超える満足度です。“行事を通して子どもの成長を感じる機会になっている”などの満足の声がある反面、“土・日の行事が多く仕事で参加できない”“行事が多すぎる”との声も多く寄せられています。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

「日常保育内容」の「遊び」に関する項目は、「クラスの活動や遊び」「子どもが戸外遊びを十分にしているか」で100%の満足度です。他項目は全て90%を超える満足度です。「生活」に関する項目では、「給食の献立内容」「子どもが給食を楽しんでいるか」で100%の満足度です。「おむつはずし」については約85%の満足度で、不満度が約7%です。「けがの説明」に関する項目では、不満度が約9%です。「給食」について、“手作り素材が良い。旬を取り入れたり無農薬”“おいしい”“野菜の苦手な子どもがおいしいとおかわりする”などの意見があります。

【問5】快適さや安全対策などについて

「快適さや安全対策」は、「子どもが落ち着いて過ごせる雰囲気」は、90%以上の満足度です。「施設設備」「外部からの不審者侵入に対する備え」「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供」については、80%を超える満足度です。

【問6】園と保護者との連携・交流について

「送り迎えの際の子どもの様子に対する説明」で、約90%の満足度です。「園の行事や開催日や時間帯への配慮」では80%を超える満足度ですが、“仕事で参加できないとなんとなく気が引ける” “行事が多い。土日が多く、週末は家族で過ごしたい” “親が多忙で対応しきれない”などの意見があります。その他の項目は全て90%を超える満足度です。

【問7】職員の対応について

「職員の対応」は、「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」で100%の満足度です。「子どもが大切にされているか」「話やすい雰囲気、態度」で95%以上の満足度です。「アレルギーのある子どもや障害のある子どもへの配慮」は90%を超える満足度です。「意見や要望への対応」は88%の満足度です。

【問8】保育園を総合的に評価すると

「総合的な評価」は、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせると98.1%です。

【問9】園への要望など

「園への要望など(自由意見欄)」では、保育全般に対し総じて評価が高く、保育者の業務負担に対する労いの声も散見されます。また、保育者の保育に対する評価も高く感謝の声も多く寄せられました。その反面、保護者参加型の行事が多く、負担感を感じる声も寄せられています。保育園に対する予算など、市の取組み強化への要望もあります。

まとめ

◇ 保育目標や保育内容に対して、多くの父母(保護者)の共感を得て全体的に満足度が高い結果です。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

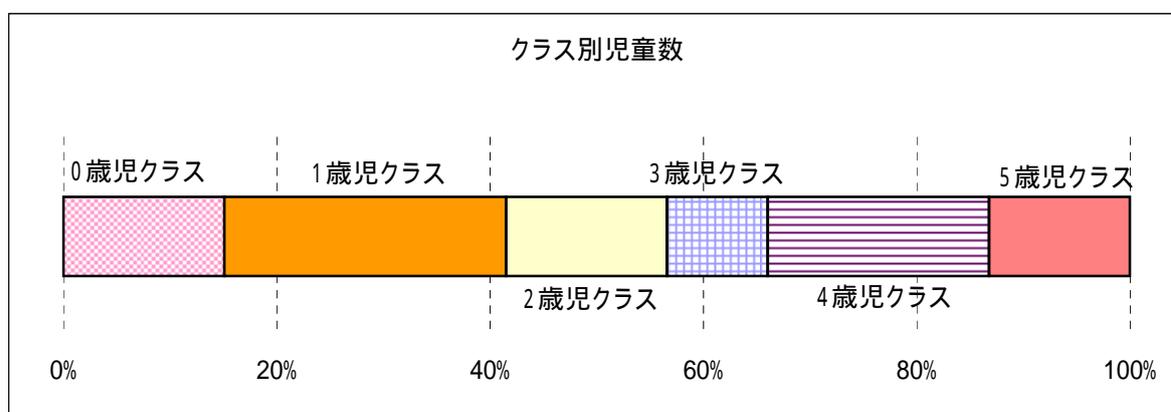
実施期間： 2009年 1月15日～1月31日

回収率： 60.9%（回収53枚／配布87枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
53	8	14	8	5	11	7	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



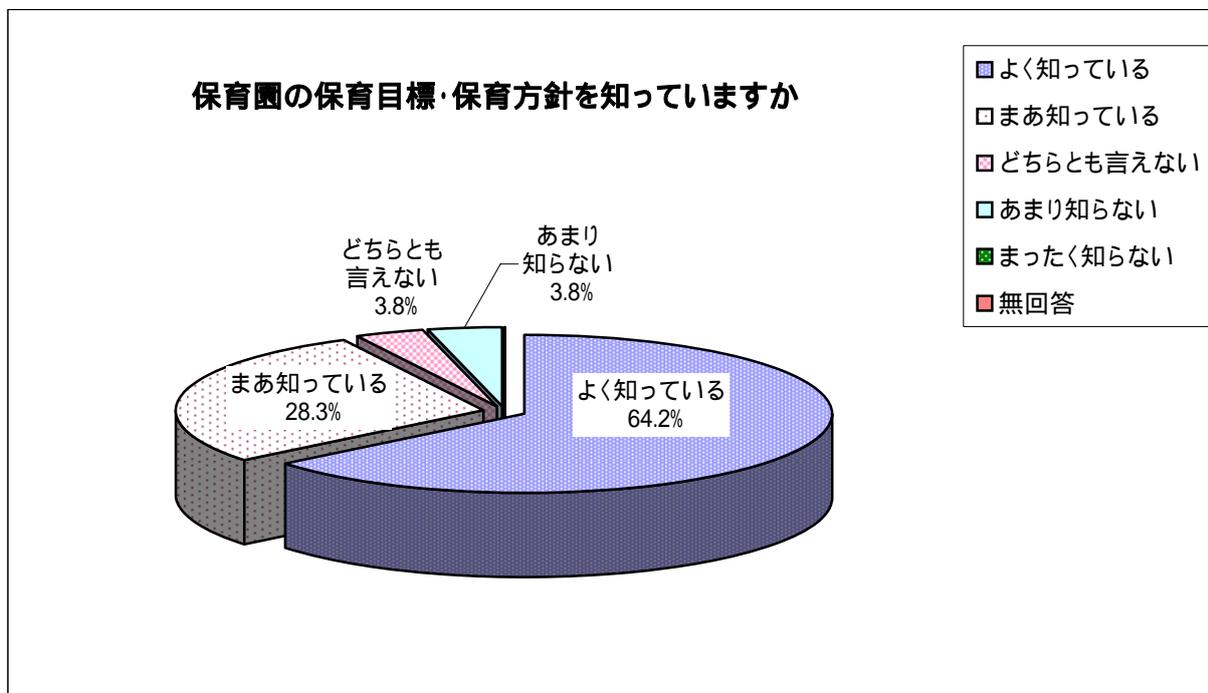
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	64.2	28.3	3.8	3.8	0.0	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

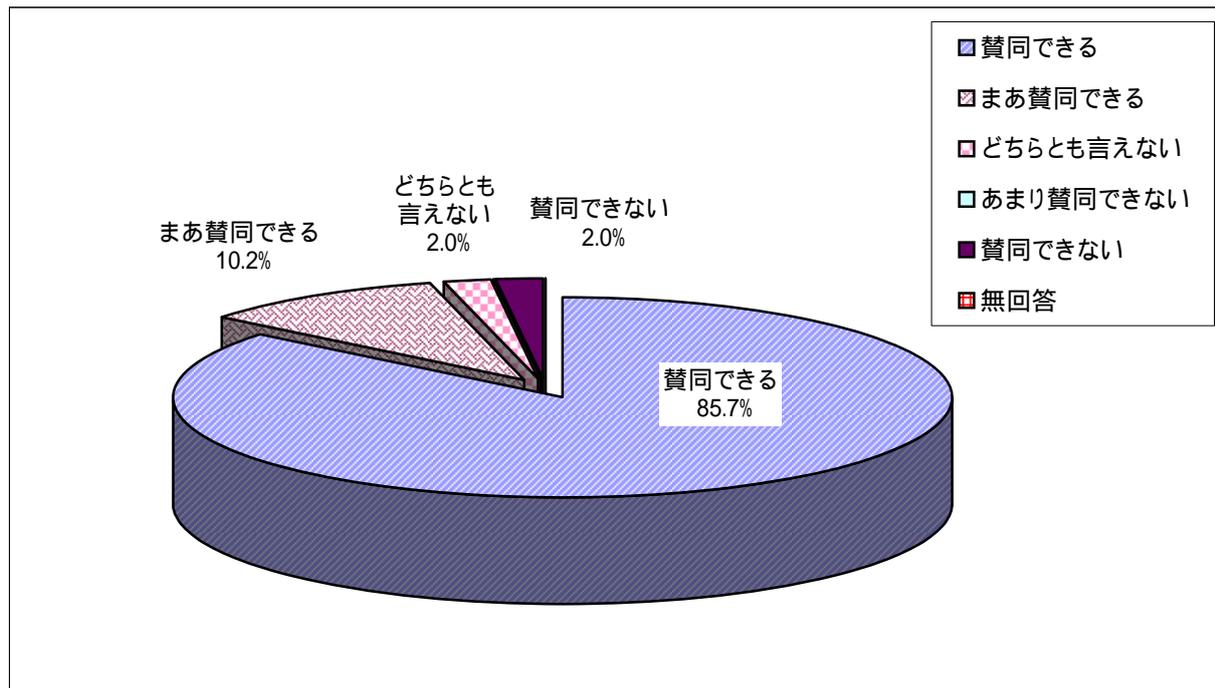


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	85.7	10.2	2.0	0.0	2.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

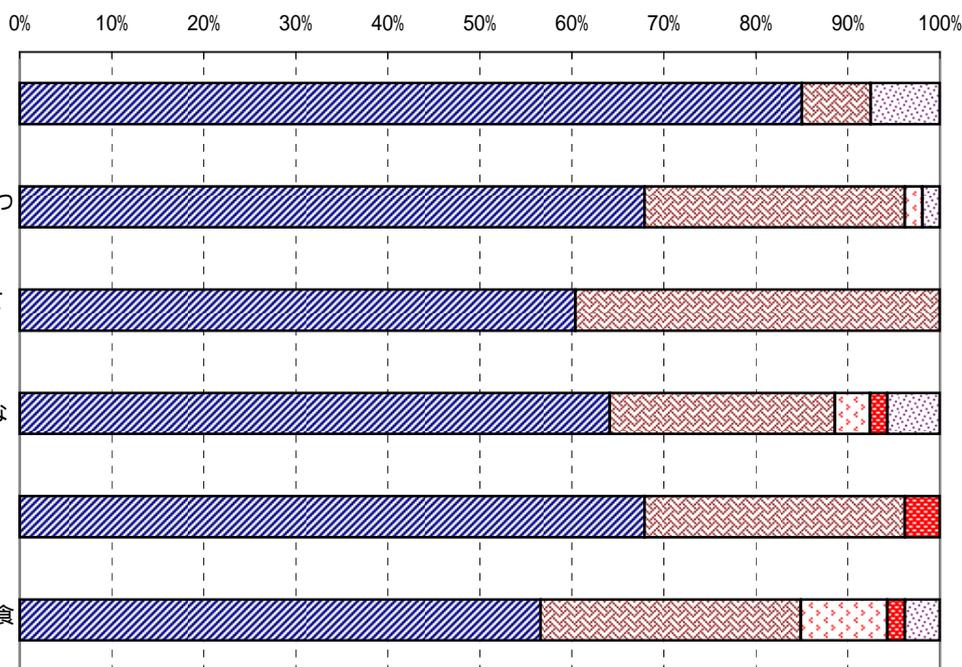
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	84.9	7.5	0.0	0.0	7.5	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	67.9	28.3	1.9	0.0	1.9	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	60.4	39.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	64.2	24.5	3.8	1.9	5.7	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	67.9	28.3	0.0	3.8	0.0	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	56.6	28.3	9.4	1.9	3.8	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



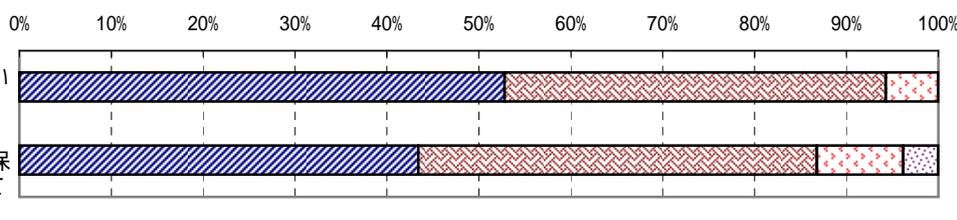
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	52.8	41.5	5.7	0.0	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	43.4	43.4	9.4	0.0	3.8	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問4 日常の保育内容について

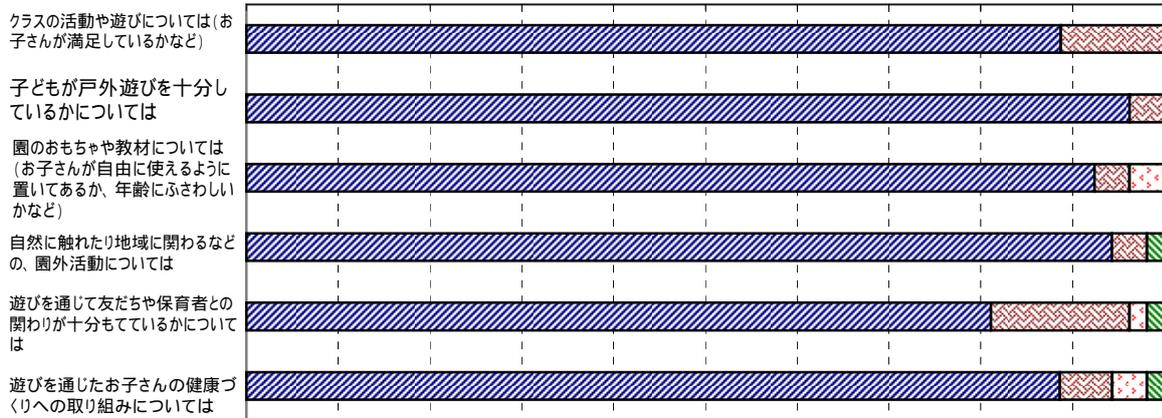
(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	88.7	11.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	96.2	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	92.5	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	94.3	3.8	0.0	0.0	0.0	1.9	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	81.1	15.1	1.9	0.0	0.0	1.9	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	88.7	5.7	3.8	0.0	0.0	1.9	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



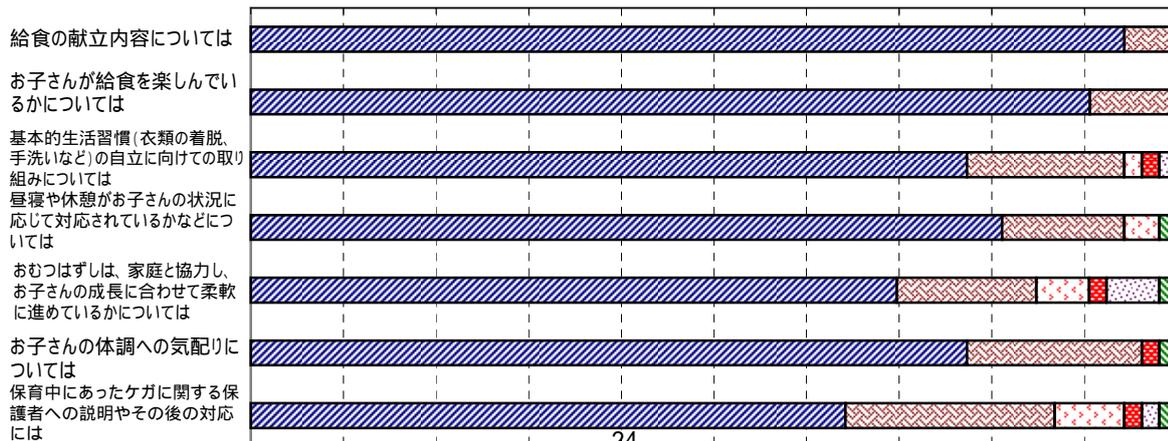
(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	94.3	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	90.6	9.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	77.4	17.0	1.9	1.9	1.9	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	81.1	13.2	3.8	0.0	0.0	1.9	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	69.8	15.1	5.7	1.9	5.7	1.9	100
お子さんの体調への気配りについては	77.4	18.9	0.0	1.9	0.0	1.9	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	64.2	22.6	7.5	1.9	1.9	1.9	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



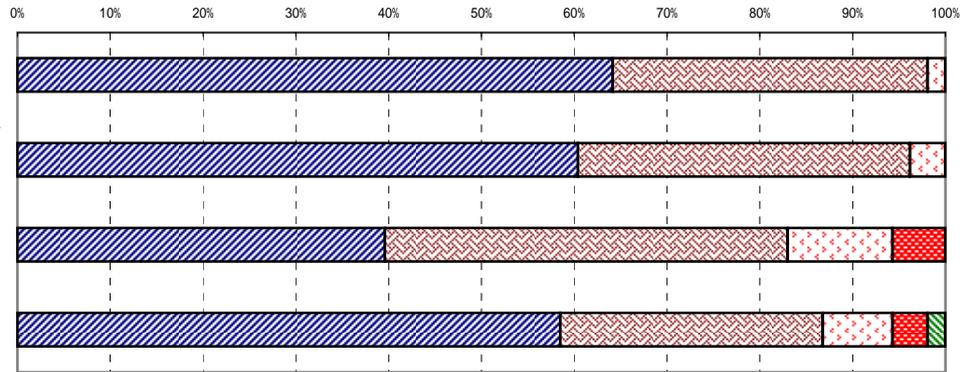
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	64.2	34.0	1.9	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	60.4	35.8	3.8	0.0	0.0	0.0	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	39.6	43.4	11.3	5.7	0.0	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	58.5	28.3	7.5	3.8	0.0	1.9	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



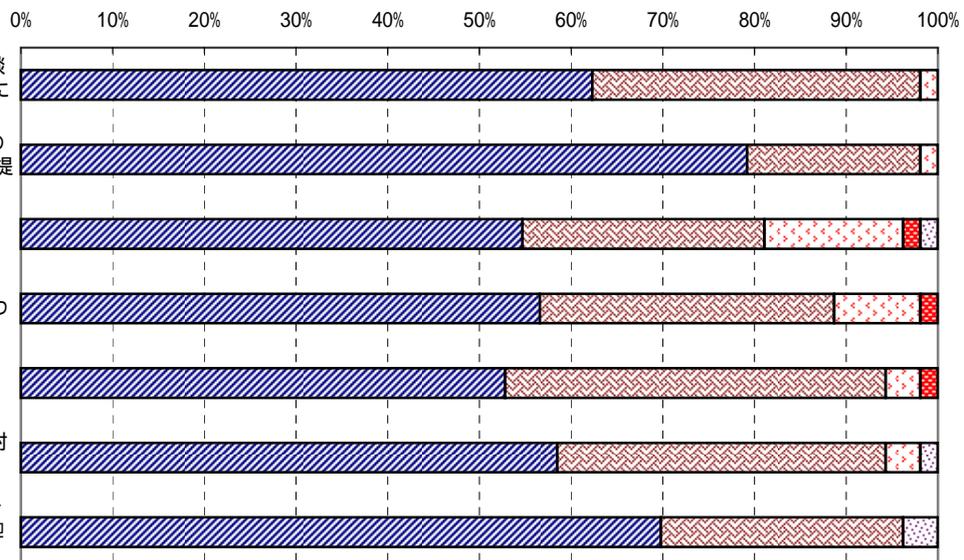
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	62.3	35.8	1.9	0.0	0.0	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	79.2	18.9	1.9	0.0	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	54.7	26.4	15.1	1.9	1.9	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	56.6	32.1	9.4	1.9	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	52.8	41.5	3.8	1.9	0.0	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	58.5	35.8	3.8	0.0	1.9	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	69.8	26.4	0.0	0.0	3.8	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



問7 職員の対応について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	83.0	15.1	1.9	0.0	0.0	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	86.8	13.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	75.5	15.1	1.9	0.0	5.7	1.9	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	71.7	24.5	1.9	1.9	0.0	0.0	100
意見や要望への対応については	62.3	26.4	1.9	3.8	3.8	1.9	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

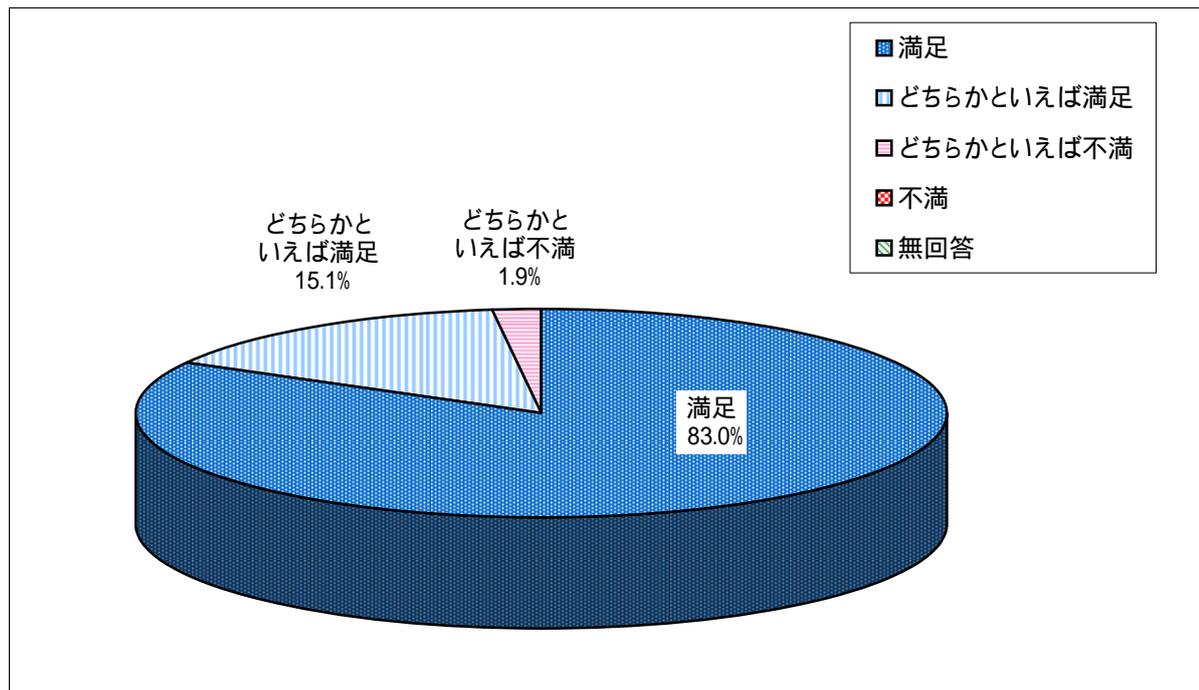
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	83.0	15.1	1.9	0.0	0.0	100



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 2月23日（月）9：00～12：30 2月26日（木）8：30～12：30

観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス（ひよこ組）

みんなで体操をしたあとは『あっぷっぷ』の絵本を読んでもらいます。みんなだるまが大好きで「だるまさんだるまさん・・・あっぷっぷ」と歌って頬を膨らませ、全員で「あっはっは」と笑います。おやつ後は部屋の奥に移り、保育者がたたく紙でできた太鼓のリズムに合わせて保育者の踊る荒馬踊りの真似をします。隣の部屋には布団の山が用意され、「おサルのかごや」の歌にあわせ、子どもたちは保育者が持つ木の棒につかまりゆすってもらい、布団の山に着地します。その間に月齢が低い2人は赤ちゃん体操をします。保育者に優しく歌を歌いながら、体を動かしてもらいうれしそうです。テーブルに向かい、クレヨンで殴り書きをしているグループもいます。出来上がった絵はその場で部屋に飾ってもらいます。

雨なので何人かのグループに分かれて園内の散歩に行きます。廊下にある水槽でえびを探したり、犬を見たり、5歳児の太鼓をたたいている様子をのぞいたりします。その間に月齢の低い2人が午前睡眠に入ります。

食事は手やスプーンを使って食べます。それぞれの発達段階にあわせ、ご飯が丸めてあったり、肉や野菜が細かく刻んであったりします。保育者はスプーンによそうのを手伝ったり、きれいなものも少しは食べるよう声をかけたりしますが、残しても何も言いません。お代わりをする子どももいます。食べ終わって眠くなった子どもから午睡となります。おしめを替える時は子ども一人ひとりと一対一で向き合い、話しかけています。

保育者にたくさん笑いかけられ、話しかけられていますので、子どもたちは落ち着いています。

1歳児クラス（みつばち組）

朝登園した子どもたちはままごとや人形遊びをしたり、牛乳パックの馬にまたがったり、袋におもちゃを詰めて運んだりして自由に遊びます。保育者はそばで見守り、子どもたちの遊びが途切れないよう声をかけています。テープに吹き込まれた卒園児一人ひとりの「卒園のうた」に合わせて、歌っている子どももいます。難しい歌詞ですが、よく覚えています。

おやつ後は散歩に行きます。みんなが気に入っている鬼のお面をかぶって行きます。階段は「ライオン」（手をついてよつんばい）の姿勢で後ろ向きにそれぞれのペースで下ります。みんなが揃うまで階段の下で保育者の話を聞きます。みんな集中して聞いています。道を渡るときは保育者が「こっちから車来る」と問いかけ子どもたちに「来ない」と安全を確認させ、横断します。

公園では近くの系列園の子どもたちと会い、一緒に遊びます。子どもたちは斜面を上がり下がりしたり、コンクリートの窪みを「お風呂」に見立てて入ったり、保育者と鬼ごっこをして目いっぱい走ったりと元気いっぱいです。

おもちゃの取り合いの時などのもめごとの時には、保育者は間に入りお互いの気持ちを確かめ、「貸して」「どうぞ」と言葉で言うように仲立ちをしていました。

2歳児クラス（たんぼぼ組）

2つのグループに分かれて散歩に行きます。道の途中にある電信柱でかくれんぼをします。保育者が近づくと電信柱の後ろに隠れていた子どもたちが「バー！」と言って脅かします。保育者が驚いてみせると子どもたちは大喜びです。道で見つけたゴミを拾い、保育者のビニール袋に入れる子どももいます。

小川の横の散歩道では通りすがりの地域の人たちと元気にあいさつを交わします。散歩道の終点に着くと、お屋さんごっこが始まります。石を焼き鳥に見立てた子どもが「ジュージュー」と石を杭に載せていくと、

周りの子どもたちも次々と石を肉、アイスクリーム、野菜などに見立ててお店を開きます。子どもたちがなかなか移動しないので、保育者が「おばけだよ、逃げろー」と走り出すと、子どもたちも遊びをやめて後に続きます。広場に移動し、電車ごっこ、追いかっこ、蝶の真似など、思い思いに好きなことをして遊びました。

園に戻ると食事です。保育者が一人ひとりに声をかけ、子どもが欲しがる分だけよそいます。よそい終わったグループから食べ始めます。スプーンで食べる子どもが多いですが、お箸を使っている子どももいます。保育者も会話に加わり、みんなでおしゃべりしながら楽しく食事をしています。

観察日には、その日がお誕生日の子どもがいました。園では子どもや保育者の誕生日を園全体で祝います。朝、入り口に「今日は ちゃんのお誕生日」と貼り出されているので、保育者やクラスの友だちだけでなく、登園した他のクラスの子もたちや父母からも「お誕生日おめでとう」と声がかかり、子どもは照れくさそうです。午後のおやつの中にはクラスで誕生会をします。お誕生席についた主役は、皆から祝福され、布製のケーキに立った本物のろうそくの火を吹き消します。保育者からはメッセージの書かれたカードが、給食室からはメッセージが書かれた旗の飾られた、お誕生日用のおやつがプレゼントされました。

3 歳児クラス（つばめ組）

歌の練習の後は、保育者が、その日の活動である「好きな人」の絵を描くための説明をします。保育者の声は小さいですが、子どもたちはしっかり集中して聞いています。

説明の後は、子どもたちは自分たちのクレヨンを持ってきて、床に寝転がったり、座ったりして思い思いに「好きな人」の絵を描き始めます。保育者は子どもたち一人ひとりに話しかけ、何を描いたかを聞いています。描き終わると、絵の具の色を選び、絵筆を使って塗ります。子どもたちは絵の具がたれても気にせず、のびやかに存分に描いています。小さいもめごとはありますが、保育者が間に入りお互いの気持ちを聞き、言葉で伝えるよう働きかけるので、すぐに仲直りしています。

お絵かきのあとは雑巾がけです。保育者が拭いていると、子どもたちも拭き始めます。バケツで雑巾絞りを習ってやってみたり、保育者に絞ってもらったりしています。

自由遊びでは、長い線路や高い塔を作ったり、エプロン、スカート、バンダナをつけて「パパの誕生日」とおままごとをしたりと、子ども同士で話しながら自由に発想を広げて遊んでいます。「片付け」の合図があるまで、各自の遊びに夢中になって遊び込みます。

食事は保育者がよそったご飯やおかずを当番が運びます。当番はとても楽しそうです。お代わりをする子どもも多く、みんなよく食べます。布団を敷くときは、子どもたちも手伝います。保育者とじゃんけんをして勝った子どもから歯を磨きに行き、磨き終わると保育者にチェックしてもらい、必要な場合は仕上げ磨きをしてもらいます。絵本を読んでもらい、一人ひとり足を拭いてもらってから布団に入ります。

4 歳児クラス（そら組）

3、4、5 歳児は朝にどんぐりルーム（5 歳児保育室）で「うたおう会」があります。5 歳児が前に、3、4 歳児は 5 歳児と向かい合って並び、「イチゴケーキ」「手のひらを太陽に」「ぼくのうた」「犬のおまわりさん」など次々と元気に歌います。手話がついている歌も多いです。子どもたちはみんな姿勢もよく、大きな口をあけて楽しそうです。保育者も一生懸命歌い、子どもたちの手本となって意欲を引き出しています。一人ひとりの「卒園のうた」では、卒園児一人ひとりの歌があり、歌詞もリズムも難しいですが、卒園児だけでなく 3、4 歳児クラスの子もたちもみんなよく覚えています。

歌のあとは保育室に戻り、たたみ染めの造形活動です。着物の話から 1 階のフレッシュルームにお雛様を見に行き、たたみ染めの話へとつなげていきます。たたみ染めをやりたくない子どもは折り紙を選択することもできます。端と端を合わせ、いろいろな形に折りしぼる作業は手間がかかり、子どもたちは集中しています。作品に色付けした後は自由遊びです。子どもたちは折り紙、絵の具遊び、切り絵などを思い思いにしています。

食事は保育者が配膳手本を示し、味噌汁以外は当番がよそいます。食べられない子どもは減らすこともできます。子どもたちの食欲は旺盛でお代わりをしている子どもも多いです。

5 歳児クラス（おひさま組）

3、4、5 歳児は外で受け入れです。子どもたちは、アスレチックで遊んだり、駆け回ったり、ペットボトルの輪投げをしたり、縄とびをしたりと思思いに元気よく遊びます。下の園庭では、半分に切ったドラム缶の上で保育者が焚き火をしており、子どもたちは周りに座って温まったり、おしゃべりをしたり、マシュマロを焼いて食べたりしています。

3、4、5 歳児が一緒に朝の「うたおう会」では 3、4 歳児の前に立って元気よく歌います。「卒園のうた」で自分の歌が歌われる時には台の上に乗ります。みんな、照れながらも誇らしげな表情です。歌い終わると賞状を受け取って上に掲げ、みんなに見せるために一周します。

5 歳児の当番が幼児組のお米を研ぎます。お米を炊飯器にうまくセットできない時は保育者が手助けします。給食では、当番がおかずをよそい、配膳します。みんなと一緒に買いに行き子ども一人ひとりが選んだ瀬戸物のお茶碗を使っているの、ご飯は保育者が丁寧によそい手渡します。子どもたちはおしゃべりをしながら楽しく食事します。

就学準備のため午睡をしていないので、午後に「ぬ」のつく言葉集めのゲームをしました。「ぬれぎぬ」「ぬすつと」など子どもたちはよく言葉を知っています。

観察日は世代間交流の「いきいきあすなる」の日でした。子どもたちがフレッシュルームに入っていくと、お年寄りたちの顔が輝きます。子どもたちも素直に自分を出しています。ボランティアのお年寄りが折り紙でお雛様の作り方を説明し、子どもたちと一緒に作ります。作りながら、子どもたちはたくさんのおしゃべりし、お年寄りがそれに一つずつ答えています。自分が知っている他の作り方を教えている子どももいます。折り紙の後は「楽しいひな祭り」の歌を手話をつけてみんなで歌い、4 人の「卒園のうた」を披露しました。お年寄りたちは、卒園が近いから寂しいと言いながらも、うれしそうに歌を聞いていました。

まとめ

保育者は子どもたちの見えるところで見守り、一人ひとりと目線を合わせ声をかけ、話をゆっくり聞いていますので、子どもたちは落ち着いて元気いっぱい園生活を楽しんでいます。

歌や太鼓、踊り、造形など、子どもの発達に合わせて自分を表現する活動を多く取り入れており、子どもたちは素直に自分を表現できるように育てています。歌や踊りなどの一斉活動においては、保育者は強制するのではなく、自らが一生懸命に取り組む姿を見せるとともに実際の手本を示すことにより、子どもの意欲を引き出しています。

自由遊びにおいても、子どもたちは自分の好きな遊びを見つけ遊び込んでおり、友達と話し合って遊びを膨らませることもできます。

生活の場面では、子どもたちができることは自分でやるよう小さい時から働きかけていますので、幼児になると自分でできるように育てています。

事業者コメント

第三者評価を受審して

2回目の受審なので、第三者評価の進んで行くシュミレーションは理解していたものの、一回ごとの自己評価会議は、ひとつひとつについて意見が豊富に交わされ、とても新鮮でした。新しい職員が加わっている事や、一回目に学んだ内容がその後どう日々の保育に生かされ、つながっているか？興味深く、また新たな発見、気づきがありました。日常的に意識している様で、改めて確認してみるとより効率的な意見が見いだせたりと、やはりこうした機会が繰り返し必要であることがわかりました。また、その上で、職員のモチベーションが上がっていく手ごたえも感じました。お父さんお母さんからのアンケートでは、大変高い評価をいただき感謝でした。これからも、日々の保育がお父さんお母さんに、より理解いただけるように一緒に力を出し、創り合っていきたいです。ありがとうございました。

(園長 林 和恵)

慌しく過ぎていく日常の保育の中で「意識すること」がいかに大切かということを今回も学んだように思います。学習会では、日頃「あたりまえ」になっていることを「なぜそうしているのか?」「そのことが何と結びついているのか?」など全職員で確認していきましました。保育の中で大切にしていることを明文化し、共通理解することが保育の向上に繋がっていきと感じました。また今回は今年度から施行された新保育所保育指針の内容にもリンクしていて、指針でうたっていることの内容も一緒に学ぶことが出来たと思います。これからの時代、保育園の果たす役割は益々大きくなるばかりですが、どう課題に向かって進めていくかのヒントを、考えることが出来た良い機会でした。

(主任保育士 小林 茂美)

「もっとこうしたらどうかなあ」ひとり一人を大切に思いながら、日々の保育に取り組む中で、職員みんなで評価項目ごとに話し合えたのは「こんな意見もあるんだ!! 明日からの保育に生かそう」と思いを新たにできる機会にもなりました。数年後には、保護者自ら保育園を選ぶ時がやってきます。鳩の森が大切にしている「共育て共育ち」に共感し一緒に歩む努力をしてくださっている保護者の方の意見を肌で感じ、今後もより一層の努力を続けたいと思います。看護師としては、子どもの安全のために、どんな情報が必要か? アンテナを高くしてニーズに応えていきたいと思っています。

(看護師 安田 亜紀子)

より良い保育をしたい！！その思いは全職員の共通の思いですが、保育予算が年々削減されたり、保護者のニーズも幅広くなってきている今、私たちが出来ることは何か？と話し合いを重ねながら保育をしている毎日です。その中で、2回目の第三者評価を受けて、私たちの保育を客観的に評価していただいたことは、様々なことに気付き、日々大事にしていることが自己満足に終わらず、保護者のみなさんから高評価していただいたことは、大変うれしかったです。今回のアンケート結果から頂いた数々の意見を、これからの保育につなげるとともに、子どもたちにとってより良いものにこだわった保育をしていきたいです。

(4歳児担任 高 雅瑛)

第三者評価を受けるにあたり、全職員による自己評価会議を4回もつことが出来ました。全職員で保育内容、目標から日常私たちが大切にしていること、疑問、問題などを改めて確認、解決に向かってより保育を深める機会を持つことができたと思います。今回の保護者のアンケート結果を見て、私たちの不足とするところや、どんな所をより丁寧に期待されているか、要望されているか、今後勉強すべき点、改善すべき点分かり、次へつなげていきたいと思いました。第三者機関に、自分の保育を見直し改めて評価していただいたことを心して、日々子どもたちにとって何が一番最善であるかを考え、しっかりと向かい合っていきたいと思いました。

(5歳児担任 小浜 希代美)

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価・改善事業ユニット

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
